

第33回 ろうきん運営委員トップセミナー

2月4日(木) ホテルセンチュリー静岡(静岡市)にて、県内各店運営委員会の運営委員長、副運営委員長などの代表者約160名の皆様により、「第33回ろうきん運営委員トップセミナー」が開催されました。



『労働組合と組合員の関係強化について』

橋本 修二 氏(ろうきん運動推進アドバイザー)
電機連合 大真空労働組合 鳥取支部 執行委員長
中国ろうきん鳥取支店 推進委員会 幹事



個別面談により
コミュニケーション不足の解消を目指す!

私の単組の労金推進活動事例をご紹介します。2000年当時の労金運動には以下の3つの問題点がありました。①交代勤務への対応が出来ておらず、7割位の組合員は労金職員との接触機会がない。②ろうきんの情報が少なく他の金融機関との違いが

わからなかったことにより、利用しやすい金融機関を使う組合員が多かった。③多重債務者への対応ができておらず、金利を気にせず借入する組合員が多かった。

労金運動を広げるためには、「組合活動」=「労金運動」として普段の組合活動でいかに組合員と理解を深めていけるかが重要と考え、個別面談を進めていくことになりました。

そのために、役員が職場に出向いて組合活動に関する意見交換をしたり個別面談に関する説明を丁寧に続けました。結果として役員も組合員と向き合う良い機会になったと思いますし、組合員も理解をしていくきっかけになったと思います。

個別面談のポイントは交代勤務者への対応だったため、労金職員の協力を取り付け、交代勤務に合わせた時間帯別の面談予定表を作成して一人あたり20分の面談を実施しました。面談後の組合員の反応としては、「直接説明を聞いて良かった」「ろうきんに親しみを感じた」等、おおむね好評で、各種の取引実績にも反映されました。

現在、我々の単組でスタートした個別面談の取組が、中国ろうきんの主要な推進活動として各県の単組に広がってきています。

メインコンセプトは、徹底的な世話役活動により存在感を発揮し、そのことにより働く人の「静岡ろうきん」想起率を向上させることを掲げています。世話役活動の終わりはありません。働く人のいろいろな場面で、特にお金のことであれば「そうだ(ろうきん)に相談してみよう!」と二人でも多くの方が「ろうきん」を思い出していただければ、世話役活動を徹底して実践しようという事です。

これは、中期計画「TRY」の目標である「働く人として向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)」を目指していくことにつながっています。このコンセプト実現のために、キーワードとして「知覚動考!」



西崎 秋芳 実行委員
(掛川支店運営委員長)



現状としては、各金融機関が個人取引に力を入れてきており、(ろうきん)を取り巻く環境は厳しさを増しています。そんな中においても、まじめに働く方々が堅実にお金を貯め、賢く融資を利用することをしっかりサポートしなければなりませんし、それが(ろうきん)の役目だと思っています。先日、日銀のマイナス



金利という方針が出されましたが、すぐさま(ろうきん)に影響があるというわけではございませんし、中期計画「TRY」の2年目となる来年度の展開においてもブレずに進めていきたいと考えております。(ろうきん)は数字だけではなく、大切なお金を預かりし、必要な方に融資するという事業を営むにはしっかり利益を出していく必要があります。目標については、私も含めてコミットしたことを着実に進めていきたいと考えています。

古川 正明 理事長
「働く人として向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)」を目指して「TRY」!

2016年に入り、株価の下落大臣の辞任その他大荒れの幕開けで先が見通せない状況となっており、日々刻々と変化する時代と言っているのではないかと思います。そんな変化の時代を乗り切るためには柔軟な対応が大切だと考えますが、柔軟な対応には「同じ内容を少し味付けを変えてやり方を変えてみる」という変化を求めるもの、全く作り替える「スワップアンドビルド」さらには今までやってきたことをやめてしまおう「発展的解消」という大胆な判断も否定で



きないのではないかと考えています。本日だけでなく今後、運営委員会等で2016年度の活動をどのように進めていくかについて議論されますが、目の前の取組は元より、10年、15年先のろうきん運動、労働運動へ繋いでいくストーリーがこの活動から描けるものだろうかということも併せて考えていただければ幸いです。今の役員さんたちの次の代へ何を託し、何を残していくのかを考えながら話し合いをいただければと考えています。

大石 雅邦 実行委員長(静岡中央支店運営委員長)
「変化の時代への柔軟な取組」



「2016年度事業計画アクションプランにもとづく営業推進の考え方(案)」

基本戦略は「事務改革」「営業改革」「人事改革」を柱とする経営改革に取り組み、安定的な事業基盤の構築を図ることにより、働く人にもっと身近な福祉金融機関として労働運動をさらに発展させていくこと

2016年度は第2期静岡ろうきん中期計画「TRY」の2年目となります。「TRY」のビジョンは「ろうきん」の理念の実践とし、「人々が支え合う共生社会の実現」という大きな目的に向かって、「働く人として向き合い、信頼され、選択される(静岡ろうきん)」を目指します。



「2016年度事業計画アクションプラン(案)」

戸倉 亨 専務理事

2016年度は中期計画の中間年度として経営改革の効果を創出し、3年目へつなげていくこととなります。2016年度事業計画アクションプランは、2015年度事業計画と、その実績および情勢認識等を踏まえて改善・補強し、諸課題への取組みに万全を尽くします。

我々の活動はまだまだ伸びしろがあります。これまで、運営委員会を中心に会員が頑張っていたいたおかげで、現役層を中心とした新規お取引が着実に伸びてきている一方で、退

職者の皆さんの預金流出は多く、ライフサポートセンター友の会への加入や魅力的な退職者層に向けた制度構築によりお取引の継続をいただけるようにしていく必要があります。また、利用配当金、ATM手数料0円等、ツールでろうきんの優位性を働く人にとってわかりやすく伝え、信頼され、選択される(静岡ろうきん)を目指していきたいと考えております。

2016年度は「知る」「覚える」「動く」をキーワードとして、各支店の運営委員会において、活動方針書を作ったことが重要になると考えています。どうぞよろしくお願いいたします。